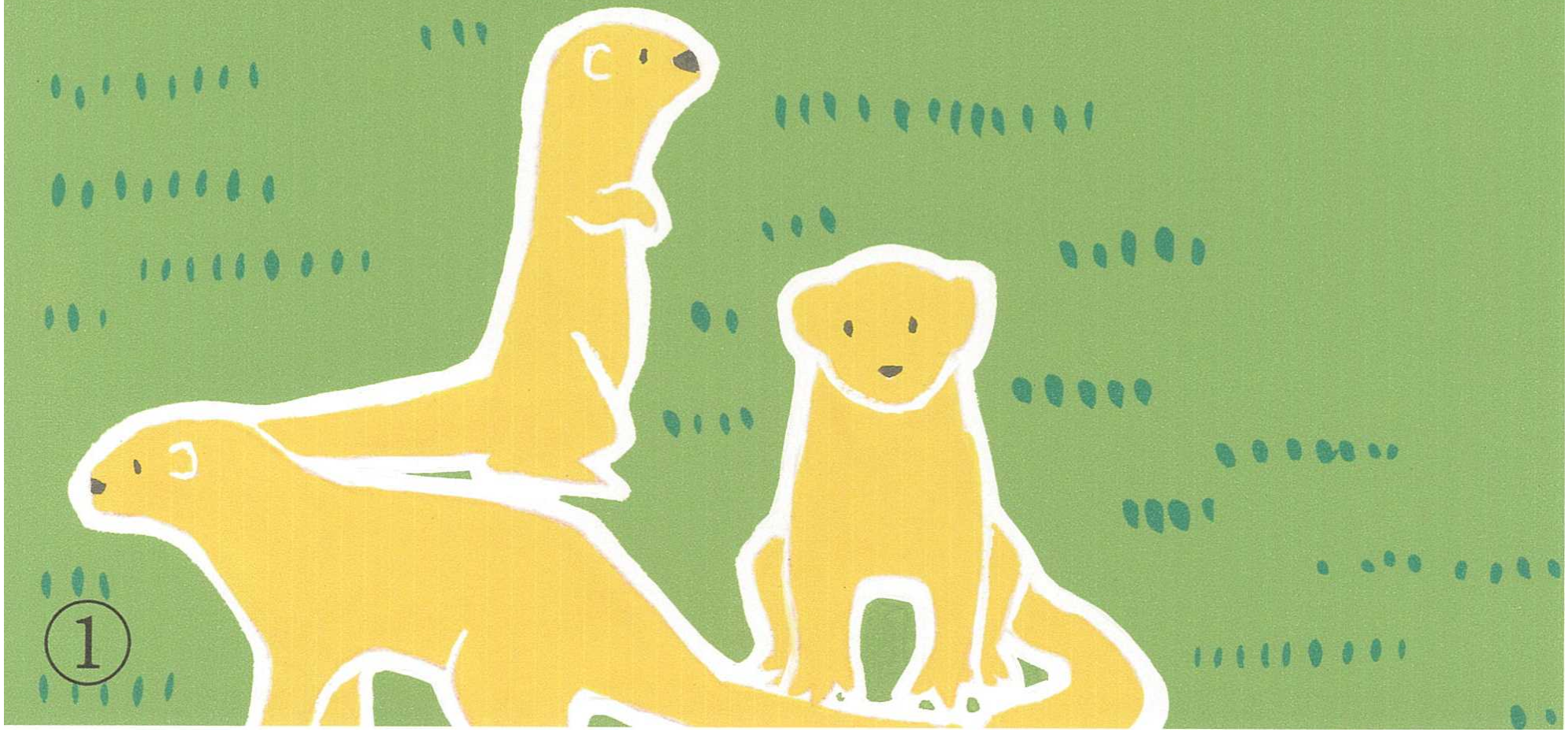
マングースものがたり

作・COP10 外来種を紙芝居で語る会



①

（２）

おっとう　「あいたたたっ」

サトウキビ畑から声が聞こえます。
あら、たいへん！
おっとうが、ハブにかまれてしまいました。
ハブの毒はつよいので、とても心配です。
家に帰ると・・・

（すべてぬく）

なにやら、おばぁと男の子が、はなしています。

おとこのこ　「おばぁ、おっとうはだいじょうぶかな？

おばあ　「おっとうは、つよいから、だいじょうぶ。
畑でハブをふんでしまったんだね。
おまえも畑にいったら、きをつけるんだよ。

ああ、よかった。おっとうはさいわい、ぶじのようです。
ただ、こんなことが、サトウキビ畑のあちこちで起こって、なかには、命をおとす人もいたのです。
村人たちは、なんとかしたいと、ずーっと思っていました。

心配そうに

ほっとしたかんじで

②

（おもてを四分の三までぬく）

（３）

そのころ、ひとりの学者が
インドのあたりを旅していました。

なんだか、にぎやかな音が
聞こえてきましたよ。

「よってらっしゃい、みてらっしゃい。
はいはい、そこの旅のおかたも。
コブラとマングースのけっとうが
はじまるよ～！」

男のことばにさそわれて、みてみると、
マングースが、いまにもコブラにかみつこう
としているじゃないですか！

（すばやく、すべてぬく）

このとき、学者はフッと、ハブのひがいで
こまっている、おきなわの人たちのことを
思いだしました。

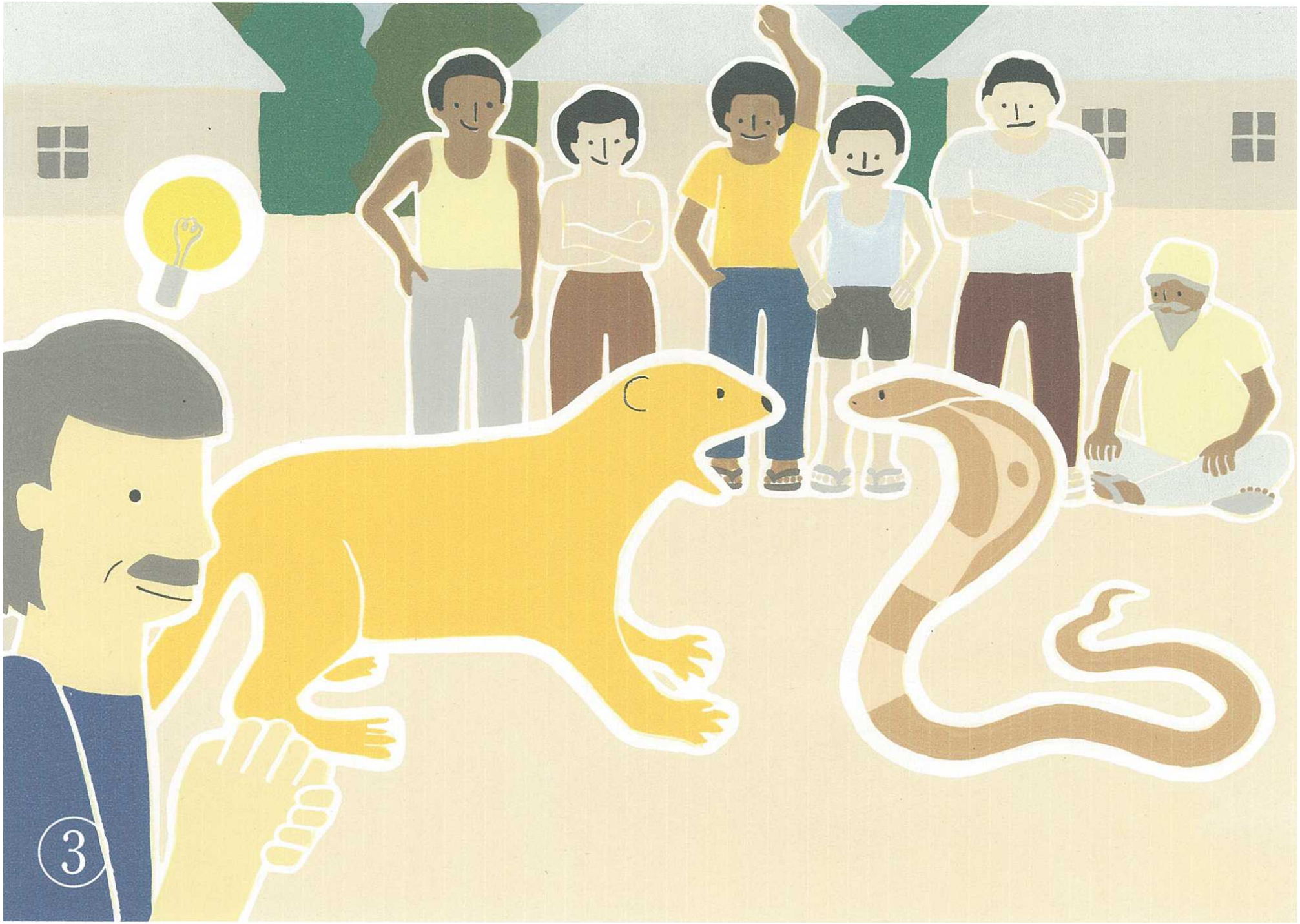
「これは、すごい。
マングースはハブを退治してくれるぞ！」

（おもてを半分ぬく）

みせものてんしゅ

げんきに

おどろいた
かんじで



（4）

ナミノオト　ザバーン、ザバーン、ザザザザァ

あの学者が、大きな船に、マングースたちをのせて、おきなわにむかっています。

マングース1　「どんなところなんだろう？」

マングース2　「あたらしい生活がはじまるんだね。」

マングース3　「ぼくは不安だよ～」

しらない場所につれてこられたマングースたちは、こんなことを考えていたのかもしれません。

（すべてぬく）

そんなマングースたちの不安をよそに、17頭が、おきなわにはなされました。

おきなわの人たちは、こどもも、大人も、おじいも、おばぁも、みんなおおよろこびです。

これで、ハブの被害がなくなるんですから。

（おもてを半分ぬく）

おおきなこえで

すこししんぱいそうに

ハブ

（5）

「月がキレイできもちのいい夜だなぁ～」
あれあれ？ ハブがゆうゆうと
夜のサトウキビ畑をさんぽしています。

これは、どうしたことでしょう？
ハブを退治してくれるはずのマングースは
何をしているんでしょう？

（すばやく、すべてぬく）

いました！いました！こんなところに、マン
グースが・・・
そうそう、マングースは明るい時間に活動
するんでした。

夜活動するハブと、昼間活動するマングー
スは、そもそも出会うことがないんです。お
なかをすかせたマングースが、ハブの代わり
に黒い鳥をねらっています。それは、希少種
のヤンバルクイナじゃないですか？

［ひと息おいて・・・］

マングースがきたのに、ハブがへらないこと。
かわりにヤンバルクイナが食べられてしまっ
ているらしいこと。
おきなわに、なにかおかしなことが起こって
いることに、村人たちはなんとなく気づい
ていました。

（おもてすべてぬく）

おこったように

おどろいたように

しんぱいそうな
こえで

5

（６）

１９９０年代に入ると、いきものの専門家たちも、このことにきづきました。

ここはおきなわの北にある、ヤンバルの森です。２人の研究者がやってきました。ヤンバルのいきものを調べています。

けんきゅうしゃ１「あっ、こんなところに羽がちらばってる。ヤンバルクイナの羽ですよ。」

けんきゅうしゃ２「たいへんだぁ。やはりマングースに食べられているようだ。」

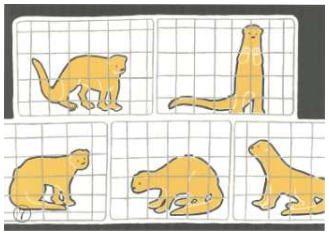
最初に島の南ではなされた17頭のマングースがふえて、それにともなってヤンバルクイナは、だんだんとすがたを消していったのです。

でも、ハブを食べない上に、増えすぎてしまったマングースには、このあとたいへんな運命がまちうけていたのです。

（おもてすべてぬく）

けんきゅうしゃになったきもちで

みんなにはなしかけるように



（7）

オリノオト　ガシャン、ガシャン　　おおきな
マングース　キーッキーッキーッ！　　こえで

マングースたちいったいどうしたの？　　いろんなこえで
マングース1「なにがなんだかわからないよ！」　　やってみよう
マングース2「捕らえられたんだ」
マングース3「わるいことなんてしてないんだよ」
マングース4「おなかがすいたから、森のいきものを
食べただけなんだ！」
マングース5「あっ、まただれか、つかまった！」

ふえすぎたマングースは、２００５年頃から
こんなふうに捕らえられています。

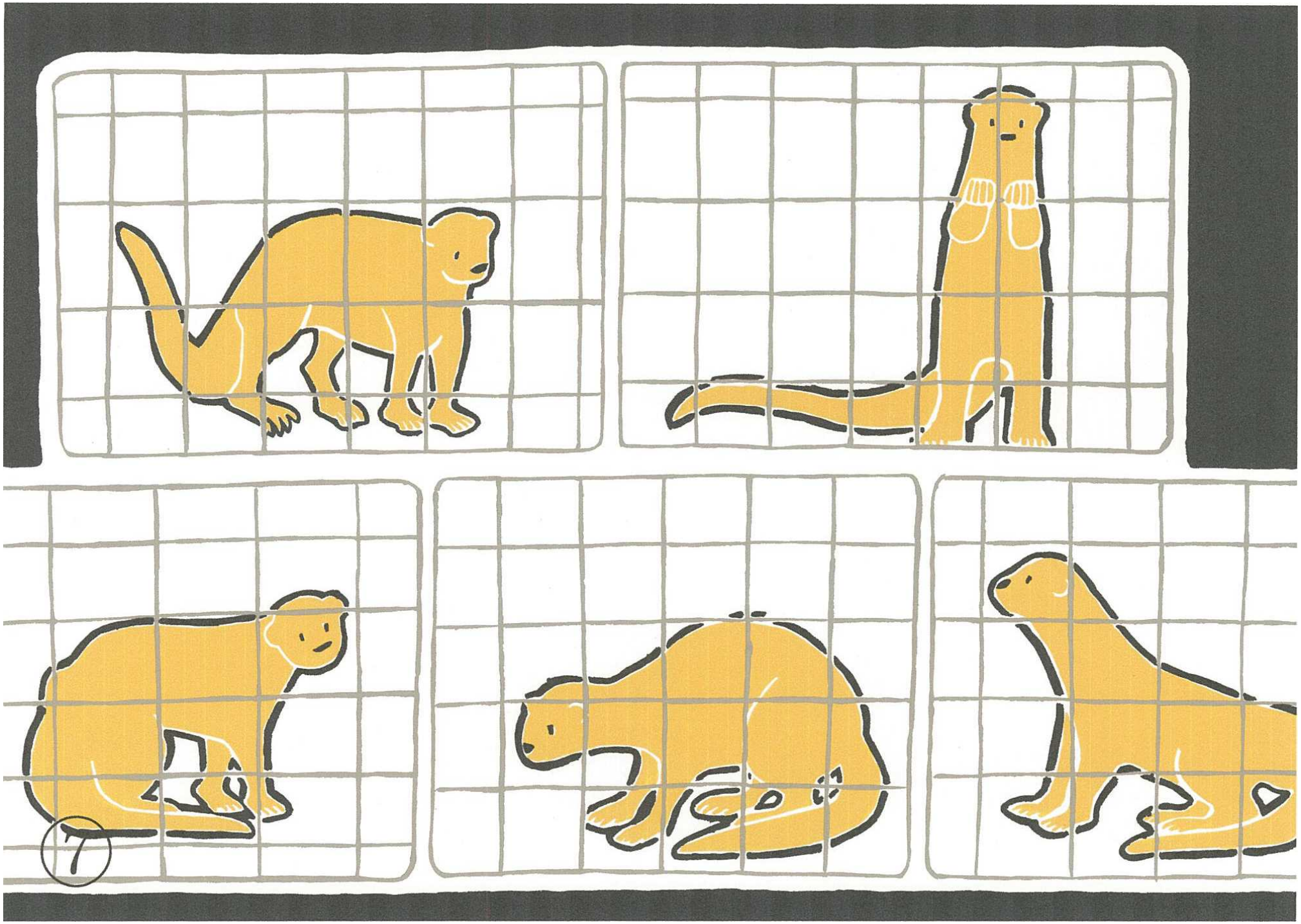
マングース「どうしてこんなことになったんだよ～」　　こまったように

おきなわという場所は、マングースにとって
とてもすみやすい環境だったのです。
だからドンドンふえて、ヤンバルクイナなど
の大切ないきものをドンドン食べてしまい
ました。

つまり、ヤンバルの森の生物多様性が、
マングースのためにくずされようとしてい
るのです。

このため、ヤンバルの森では、捕獲が行われ
るようになりました。

（おもてをすべてぬく）


7

（8）

でも、それってマングースからしたら、
人間の勝手です。

マングースはいいます。
「勝手につれてきて、ふえたからって捕まえるなんて、ひどいじゃないか！」

マングース

ヤンバルクイナもいいます。
「ぼくらが安心してくらせる楽園をかえしてよ～」

ヤンバルクイナ

せめられた人間は・・・
「やっちゃったよ～」と頭をかかえます。

にんげん

こんどは、マングースが怒ります。
「やっちゃったじゃないだろ～」

マングース

ハブがみかねて・・・
「よく考えて、マングースをつれてきたの？
もうっ！」

ハブ

こんな声がきこえてきそうです。

（おもてをすべてぬく）

それぞれの
こえをかえて

（9）

さあ、かみしばいはこれでおしまいです。
さいごに、このおはなしについて、少しだけ考えましょう。

みなさんは、どう感じたでしょうか？
こんなことは、むかしのことでしょ？と思ったかもしれません。
こんなばかげたこと、わたしだったらやらないと思った人もいるかもしれません。

でも、じつはいまも、みなさんの身近なところで、これとおなじ問題が起こっているんです。

「外来生物問題」ってきいたことあるでしょうか？
たとえば、ブラックバスがふえて、こまっている湖があります。ペットだったカミツキガメが、公園の池にすてられて、しばしばニュースになっています。

〔このあとみんなで、自分たちの地域の問題について考えてみましょう〕

（おしまい）

これは、いまから１００年ほど前に、
おきなわのある村で、
ほんとうにあったおはなしです。

それでは、マングースものがたりのはじまりです。

（おもてを半分ぬく）

外来生物法について

環境省では、２００５年に外来生物による被害を防ぐために、「外来生物法」という法律をつくりました。この法律でみなさんに守っていただきたいことは、次の3つです。

1. 外来生物を入れない。
悪影響を及ぼすかもしれない外来生物を、むやみに日本に入れてはいけません。

2. 外来生物を捨てない。
飼っている外来生物を、野外に捨ててはいけません。

3. 外来生物を拡げない。
野外にすでにいる外来生物を、他の地域に連れてってはいけません。

これをみなさんが守ることで、いま各地で起きている、もともと日本にすんでいた生きものがすんでいた場所から追いやられてしまうという、外来生物による問題が、くいとめられることになるのです。